



令和5年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和5年3月30日

上場会社名 ファーマライズホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2796 URL http://www.pharmarise.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 秋山 昌之
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 沼田 豊 (TEL) 03-3362-7130
 四半期報告書提出予定日 令和5年4月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年5月期第3四半期の連結業績(令和4年6月1日~令和5年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年5月期第3四半期	38,730	0.4	896	△10.4	890	△12.2	208	△35.2
4年5月期第3四半期	38,579	0.3	1,000	31.4	1,014	65.7	322	182.5

(注) 包括利益 5年5月期第3四半期 217百万円(△32.7%) 4年5月期第3四半期 324百万円(206.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年5月期第3四半期	22.24	16.89
4年5月期第3四半期	34.60	26.16

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
5年5月期第3四半期	22,935	6,833	28.4
4年5月期	23,746	6,699	26.9

(参考) 自己資本 5年5月期第3四半期 6,523百万円 4年5月期 6,399百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年5月期	—	0.00	—	14.00	14.00
5年5月期	—	0.00	—		
5年5月期(予想)				14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年5月期の連結業績予想(令和4年6月1日~令和5年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,794	0.4	1,411	△7.2	1,379	△9.1	397	△11.3	42.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

5年5月期3Q	9,746,645株	4年5月期	9,673,785株
5年5月期3Q	321,100株	4年5月期	321,100株
5年5月期3Q	9,392,184株	4年5月期3Q	9,324,139株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（令和4年6月1日～令和5年2月28日）におけるわが国経済は、このところ一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しております。先行きについては、ウィズコロナの下で、景気が持ち直していくことが期待されますが、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある状況です。

こうしたなか、当社グループは令和3年12月24日に「中期経営計画LSG（Leading to Sustainable Growth）2024」を公表し、株主価値の更なる向上を目指し、競争力を強化し成長していくため、①投資家に選ばれる会社になるための取り組み強化、②調剤事業を核とした事業展開による収益獲得強化、③経営基盤の更なる強化による収益構造の改善を推進しております。

当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高38,730百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益896百万円（前年同期比10.4%減）、経常利益890百万円（前年同期比12.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は208百万円（前年同期比35.2%減）となりました。

売上高につきましては、薬価改定の影響はあったものの処方せん枚数及び技術料単価の増加、並びにコンビニエンスストア部門及び職業紹介事業の売上増加により、前年同期比増収となりました。

利益面においては、調剤技術料の算定は順調に進展しているものの、薬価改定の影響に加え、調剤薬局事業における仕入条件に係る見込差異の発生、当期に実施した新規出店やM&A等による販管費の増加及び物販事業の水道光熱費等の経費の増加並びにドラッグストア部門による売上高の計画未達等を主な要因として営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同期比で減益となりました。

なお、第3四半期連結会計期間対比では前年同期比で増収増益となっております。

セグメント毎の業績は次の通りであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。変更の詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）当第3四半期連結累計期間」の「2 報告セグメントの変更等に関する事項」を参照ください。

（調剤薬局事業）

当第3四半期連結累計期間における調剤薬局事業の業績は、新型コロナウイルス感染症の影響による受診抑制の緩和を背景とした処方せん枚数の回復の兆しや調剤技術料の算定増加等により売上高は31,532百万円（前年同期比0.4%増）と増収、利益面においては、薬価改定の影響及び仕入条件に係る見込差異の発生、当期に実施した新規出店やM&A等による販管費の増加等を主な要因としてセグメント利益は1,129百万円（前年同期比9.3%減）と減益になりました。同期間における調剤薬局店舗は6店舗増加、9店舗減少で、当社グループが運営する店舗数は298店舗となりました。増加した店舗は、株式譲受により取得した有限会社映双薬局の2店舗（神奈川県）及び株式会社くすき調剤薬局の1店舗（三重県）、有限会社池本薬局の1店舗（北海道）、ファーマライズ株式会社の新規開店の2店舗（栃木県及び大阪府）であります。

薬局運営面につきましては、選ばれる「かかりつけ薬局」となるために、①地域医療（在宅医療及び施設調剤、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局）の実施、②後発医薬品推進、③患者情報の一元管理や重複投与・飲み合わせ・残薬確認強化の観点から電子お薬手帳「ポケットファーマシー」の利用促進、④生活習慣病の予防を継続的に支援していくことを目的とした、当社独自の健康寿命延伸プログラムである「継続支援プログラム」の推進、⑤店舗ごとに特徴・行動計画を打ち出し必要に応じて本部が支援する「コンセプト薬局」施策の開始、⑥かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、市販薬や健康食品から介護や食事・栄養摂取に関することまで気軽に相談できる「健康サポート薬局」の継続的な推進に取り組んでおります。

なお健康サポート薬局は当第3四半期連結会計期間末時点で80店舗（前年度末比9店舗増）となり、地域連携薬局は121店舗（前年度末比25店舗増）となりました。また、専門医療機関連携薬局につきましても認定取得に向け準備を進めております。

（物販事業）

当第3四半期連結累計期間における物販事業の業績は、売上高は5,760百万円（前年同期比0.9%増）、セグメント損失は170百万円（前年同期はセグメント損失151百万円）となりました。これは、売上高においては、コンビニ

エンスストア部門におけるコロナ影響の緩和を背景とした売上高の伸長、利益面においては、ドラッグストア部門において、前期の閉店影響及び主力の医薬品は回復しつつあるもののマスク等の衛生材料等コロナ関連需要の減退による売上減少が主な要因であります。今後は、同部門においてD X化やe コマースに対する取組みも進めてまいります。

また、同期間における調剤を併設しない本セグメントの当社グループが運営する店舗数は1店舗増加の46店舗となりました。

(医学資料保管・管理事業)

当第3四半期連結累計期間における医学資料保管・管理事業の業績は、主に医療機関における経費削減の動きから紙カルテ等の保管年数の短縮化の影響を受け、売上高は485百万円(前年同期比6.0%減)、セグメント利益は56百万円(前年同期比21.1%減)となりました。一方で紙カルテ等の保管・管理のニーズは継続的に発生していることから、それらの獲得と新たなサービス提供に向けた営業活動を展開しております。

(医療モール経営事業)

当第3四半期連結累計期間における医療モール経営事業の業績は、売上高は378百万円(前年同期比0.1%増)、セグメント利益は減価償却費が減少したことで70百万円(前年同期比45.0%増)となり、安定的に推移しております。

(その他)

当第3四半期連結累計期間におけるその他事業の業績は、職業紹介事業のD X人材需要の増加に対応できたことを主な要因として売上高は573百万円(前年同期比2.3%増)、これに加え、システムインテグレーション事業の赤字が縮小したことによりセグメント利益は37百万円(前年同期比62.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は22,935百万円となり、前連結会計年度末残高23,746百万円に対し、811百万円減少いたしました。主な要因は、商品及び製品が増加した一方で、未収入金が減少したことによるものであります。

(負債)

負債の残高は16,101百万円となり、前連結会計年度末残高17,047百万円に対し、945百万円減少いたしました。主な要因は、買掛金が増加した一方で、未払法人税等、長期借入金が減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産の残高は6,833百万円となり、前連結会計年度末残高6,699百万円に対し、134百万円増加いたしました。この主な要因は、利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和4年12月29日付の決算短信で公表いたしました令和5年5月期の連結業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和4年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,991	4,421
売掛金	484	560
商品及び製品	2,237	3,049
原材料及び貯蔵品	65	71
未収入金	3,786	2,169
その他	319	331
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	10,878	10,599
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,121	2,946
土地	2,616	2,600
その他（純額）	617	565
有形固定資産合計	6,355	6,112
無形固定資産		
のれん	3,220	2,939
その他	409	405
無形固定資産合計	3,629	3,344
投資その他の資産		
その他	3,045	3,032
貸倒引当金	△164	△153
投資その他の資産合計	2,881	2,878
固定資産合計	12,866	12,335
繰延資産	1	0
資産合計	23,746	22,935

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和4年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,109	4,427
1年内償還予定の社債	—	1,482
1年内返済予定の長期借入金	2,276	2,019
未払法人税等	429	106
賞与引当金	46	283
店舗閉鎖損失引当金	50	26
その他	1,564	1,095
流動負債合計	8,477	9,442
固定負債		
社債	1,482	—
長期借入金	5,603	5,262
退職給付に係る負債	781	817
資産除去債務	111	113
その他	592	465
固定負債合計	8,570	6,659
負債合計	17,047	16,101
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,274	1,298
資本剰余金	1,529	1,553
利益剰余金	3,811	3,889
自己株式	△210	△210
株主資本合計	6,405	6,531
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	△0
退職給付に係る調整累計額	△5	△6
その他の包括利益累計額合計	△6	△7
新株予約権	208	208
非支配株主持分	91	101
純資産合計	6,699	6,833
負債純資産合計	23,746	22,935

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年6月1日 至 令和4年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年6月1日 至 令和5年2月28日)
売上高	38,579	38,730
売上原価	32,512	32,717
売上総利益	6,066	6,013
販売費及び一般管理費	5,065	5,116
営業利益	1,000	896
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	1	1
受取手数料	10	20
受取賃貸料	12	12
その他	86	21
営業外収益合計	112	57
営業外費用		
支払利息	49	40
賃貸原価	7	8
その他	40	13
営業外費用合計	98	62
経常利益	1,014	890
特別利益		
固定資産売却益	2	1
店舗閉鎖損失引当金戻入額	21	16
補助金収入	—	61
特別利益合計	23	80
特別損失		
固定資産売却損	—	5
固定資産除却損	18	31
減損損失	52	46
固定資産圧縮損	—	61
賃貸借契約解約損	—	104
特別損失合計	70	248
税金等調整前四半期純利益	967	722
法人税等	641	503
四半期純利益	326	218
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	322	208

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年6月1日 至 令和4年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年6月1日 至 令和5年2月28日)
四半期純利益	326	218
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	0
退職給付に係る調整額	△1	△0
その他の包括利益合計	△1	△0
四半期包括利益	324	217
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	320	208
非支配株主に係る四半期包括利益	3	9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 令和3年6月1日 至 令和4年2月28日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・ 管理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	31,411	5,711	516	377	38,018	560	38,579	—	38,579
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	31,411	5,711	516	377	38,018	560	38,579	—	38,579
セグメント利益又は損失 (△)	1,244	△151	71	48	1,213	22	1,236	△235	1,000

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、製薬企業等向けのシステムインテグレーション事業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△235百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

調剤薬局事業及びその他において、減損損失をそれぞれ10百万円、42百万円計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は52百万円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 令和4年6月1日 至 令和5年2月28日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・ 管理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	31,532	5,760	485	378	38,156	573	38,730	—	38,730
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	31,532	5,760	485	378	38,156	573	38,730	—	38,730
セグメント利益又は損失 (△)	1,129	△170	56	70	1,086	37	1,123	△226	896

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、製薬企業等向けのシステムインテグレーション事業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△226百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「調剤薬局事業」「物販事業」の各事業内に含めておりました卸売に係る取引においては、各報告セグメントから「その他」セグメントに統合しております。これは経営管理上の意思決定や業績区分を見直した結果、従来のセグメントとは分けて区分することがより適切であると判断したことによるものであります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

調剤薬局事業において、減損損失を46百万円計上しております。